

あらすじ

日本女性の代表としての「アズミ・ハルコは行方不明」という日本映画における日本女性の性差別

序論

性別の問題に基づく差別は、日本社会のように進歩していると言える社会を含め、地域生活の中で遭遇する新しいことない。性別の問題、特に女性はセカンドセクスとしてのジェンダー差別が、家父長制を遵守する地域社会で比較的一般的な問題であり、日本が含まれる。本論文は”アズミ・ハルコは行方不明”というドラマからデータを得られた。この映画は日本の女性がどのような性差別に扱われたかを述べて、映画の中の人物を通して日本の女性がどのように表れることを述べる。

本研究の目的は、映画「アズミ・ハルコは行方不明」にはどのような性差別の表現が反映されているのか、そして映画「アズミ・ハルコは行方不明」の登場人物を通して日本の女性はどのように表されるのかという疑問に答えることである。問題に答えるために、本研究の問題は記述的な定性的方法を使用されて、性差別の概念を使った文化研究によって研究される。文化の研究は Barker の理論を使用することである。本研究は、映画で性差別を表す性と密接に関連する。Barker (2006: 10)によると、文化研究の中核は表現の意味の実践としての文化の研究を使用して、理解することができる。

また、筆者に選択された概念は性差別理論によって支持されている。性差別は人生の様々な側面をカバーする性別に基づいて区別される行動の見方である。例えば、世帯、地域社会、仕事の世界、政治などである。女性が経験している差別は、特にほとんどの社会で疎外されたセックスと見なされている。性別による役割の分担という固定観念に起因する性差別行動は、性別によって区別される行動の観点であり、人生のさまざまな側面を網羅している。Kinjo (2001)によると、性別分業や、男らしさ、女らしさという性による特性は、生物学的性差から直接導き出されるものではなく、歴史的、社会的、文化的に造られてきたものであり、したがって人為的なものであることが明らかになってきた。性差別の行為は、実際にコミュニティによって行われているものであることを示している。性別による役割の固定観念と、特定の男女が他よりも優れた立場にあるという信念から生じる差別である。

性差別の行為者とは、行動を通じて表現される言葉、言葉による労働の違い、社会における扱いの違いなどの言葉、セクシャルハラスメント、レイプなどの性的暴力などの極端なもの、あるいは意識的にも無意識的にも、ある性別が他のものよりも価値があるという信念、*misogyny* (女性に対する憎悪) または *misandria* (男性に対する憎悪) などの信念である。

Mikolajczak と pietrzak (2015; 170) に Swim, aikin, hall, dan hunter (2009) によると、性差別は“*beliefs that maintain or promote inequality between women and men*” (信頼は男女間の格差を維持または拡大する)。

本論

本研究の分析として、アズミ・ハルコは行方不明 というドラマから、女性差別に対する行動と態度は4つに分ける。

1. 主婦のグループとは、ハルコのお母さんとエリは日本人の妻として演じる日本人女性と性的差別に対する態度を表している。
2. 女性労働者のグループとはキャリアを持って、または会社で働いている女性である。それは日本のキャリアウーマンと性差別に対する態度を代表するハルコとヨシザワによって演じられている。
3. 成人生年のグループとは、ちょうど成人期に入っている女性で愛の問題を抱えている傾向がある。
4. 女子高生グループとは、男性の支配に反対し、女子高生のグループによって演じられている女性である。このグループは、女性の期別に対する身体的な抵抗を持つ男性と戦う能力を持つ日本の女性の強さを表している、女性が団結している限り、それは暴力を伴う。

結論

本研究の結論は無意識のうちに、日本を含むコミュニティでは依然として性差別が一般的であるということである。日本の女性たちは、映画「アズミ・ハルコはユメク・フメイ」を通して生まれる性差別の表現に従って、依然として二級社会として分類されている。家庭の性的行為の存在、それはいまだに強い家族制の影響を受けている、例えば家族のしもべである女性のようなものである。

さらに、女性は依然として仕事の世界で性差別的行動を経験している。男性の労働者と同じではない賃金に関する差別的な行動の形態、及び男性よりも低い女性の道徳に関する見解もある。



DAFTAR ISI

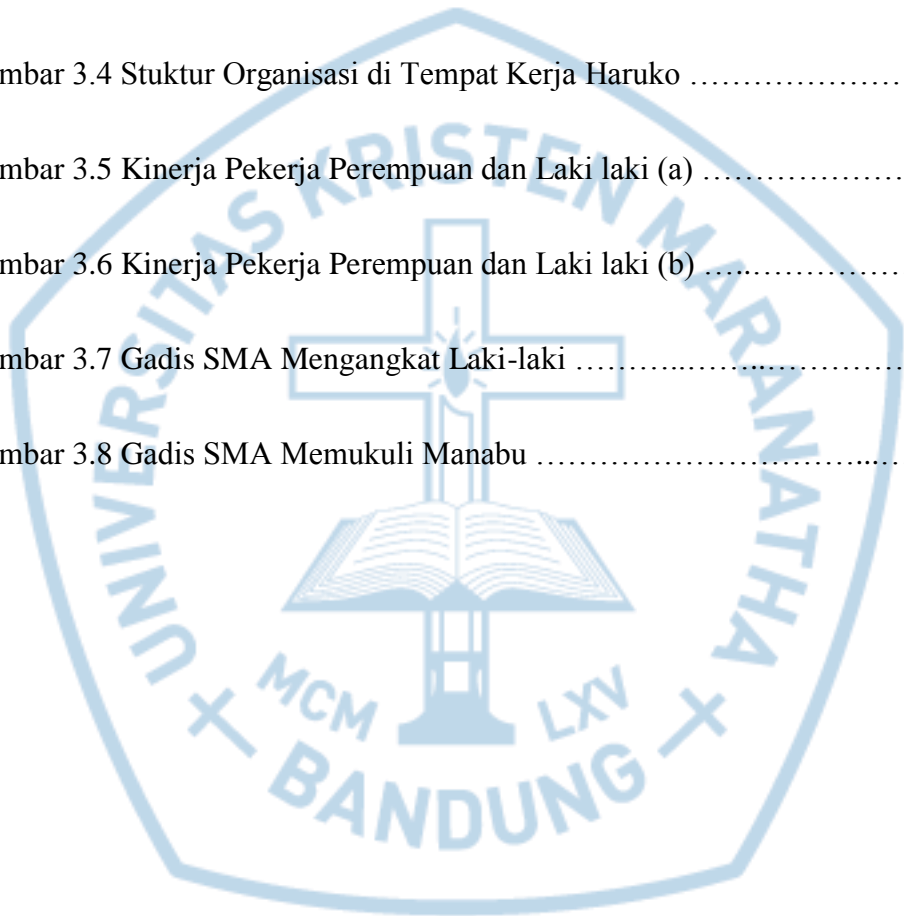
LEMBAR JUDUL SKRIPSI	i
LEMBAR PENGESAHAN	ii
LEMBAR PENGESAHAN ORISINALITAS	iii
PERNYATAAN PUBLIKASI SKRIPSI	iv
KATA PENGANTAR	v
DAFTAR ISI	vii
DAFTAR GAMBAR	ix
DAFTAR TABEL	x
BAB I PENDAHULUAN	1
1.1 Latar Belakang Masalah	1
1.2 Pembatasan Masalah	6
1.3 Tujuan Penelitian	6
1.4 Metode dan Pendekatan	7
1.5 Organisasi Penulisan	8
BAB II KERANGKA TEORI	10
2.1 Kajian Budaya	10
2.2 Seksisme	13
2.3 Seksisme di Jepang	16
2.3.1 Perempuan Jepang dalam Dunia Kerja	18
2.3.2 Perempuan Jepang dalam Keluarga	21
2.3.3 Perempuan Jepang dan Seksualitas	22

BAB III REPRESENTASI PEREMPUAN JEPANG DALAM FILM <i>AZUMI HARUKO WA YUKUE FUMEI</i>	25
3.1 Kelompok Ibu Rumah Tangga	26
3.2 Kelompok Perempuan Pekerja.....	31
3.3 Kelompok Remaja Dewasa	42
3.4 Kelompok Gadis SMA	44
BAB IV KESIMPULAN	48
DAFTAR PUSTAKA	52
SINOPSIS「あらすじ」.....	56
RIWAYAT HIDUP PENULIS	60



DAFTAR GAMBAR

Gambar 3.1 Posisi Duduk	26
Gambar 3.2 Ibu Merawat Nenek (a)	28
Gambar 3.3 Ibu Merawat Nenek (b)	28
Gambar 3.4 Stuktur Organisasi di Tempat Kerja Haruko	32
Gambar 3.5 Kinerja Pekerja Perempuan dan Laki laki (a)	36
Gambar 3.6 Kinerja Pekerja Perempuan dan Laki laki (b)	36
Gambar 3.7 Gadis SMA Mengangkat Laki-laki	46
Gambar 3.8 Gadis SMA Memukuli Manabu	46



DAFTAR TABEL

Tabel 2.1 Sex dan Jender	14
Tabel 2.2 Tabel Persentase Perempuan Yang Merawat Orang Tua	22

